

大分大学大学院 経済学研究科 同窓会誌

四極青雲会

青雲

せいうん

第十四号



高商・経専・経済学部と1968年まで続いた上野丘の格調のある校舎

目 次

| | | |
|-----------------------------|-------|----|
| みんなで、次のステージへ | 安徳久仁理 | 2 |
| 中国訪問と経済学研究科 | 市原 宏一 | 2 |
| 大学院という新たな環境に身を置いて | 田代 浩 | 3 |
| 地域運営組織で活躍を！ | 山浦 陽一 | 3 |
| 量子経済学のすすめ | 水口 雅夫 | 4 |
| 私の趣味はランニング！ | 阿部万寿夫 | 5 |
| 情報生産者になりたい | 久住 真和 | 6 |
| 土づくりと稲作 | 甲斐 幸丈 | 6 |
| 学ぶことの最終目的 | 道頭 孝憲 | 7 |
| One step at a time | 片岡 大 | 8 |
| 人生、始めるのに遅すぎることはない | 阿南 寿和 | 8 |
| 大分大学大学院での生活体験 | 呉 若水 | 9 |
| 未来への架け橋～日本での学びと成長～ | 宋 雨薇 | 9 |
| スポーツを通じて日本の地方圏を理解する | 呉 ハヌン | 10 |
| 四極会100周年祝賀会のご案内 | 木本 英光 | 11 |
| 四極会支部名簿 | 事 務 局 | 11 |
| 第14回四極青雲会総会 | 事 務 局 | 13 |
| 第24回定例会・イノベーション経済セミナー | 事 務 局 | 13 |
| 第25回定例会・イノベーション経済セミナー | 事 務 局 | 14 |
| 2024年度新院生のご紹介 | 事 務 局 | 15 |
| 編集雑感 | 事 務 局 | 16 |

みんな、次のステージへ

日本銀行大分支店長

安徳 久仁理



日本の経済は、長期間続いたデフレ（一般物価の継続的な低下）と、総需要の不足によって引き起こされた停滞を脱しつつあります。少子高齢化を背景に労働人口が減少する中、雇用環境は極めて良好。賃上げを伴う人材の獲得競争が激しさを増しており、この傾向は当面続くと考えられます。

こうした状況は、日本経済の中心的課題が、「停滞する経済の中で、雇用を守り抜く」ことから、「労働供給制約が高まる中で、生産性（付加価値）を高める」ことへと、明確にシフトしつつあることを意味しているでしょう。賃金を上げて人材を確保・繋留するには、あるいは資本投資によって生産性を上げていくには、まずはその原資を確保するための収益がなければなりません。

収益を上げる、というのは当たり前前のことのようにですが、実は最近までの経済の停滞期においては、収益を上げられない事業であっても、そこで雇用されている従業員を守ることの方が優先される、という社会一般のコンセンサスが存在したと思います。それは、安定と調和を尊ぶこの社会の価値観の反映であり、決して否定されるようなことではありません。

働く人間の生活が守られることの重要性はこれからも変わりませんが、労働市場の流動性（要は新しい仕事の見つけやすさ）は格段に高まっていますし、なにより世の中は求人にあふれています。これからの時代、いわゆる「ゾンビ企業」を卒業した労働者は、ほどなく次の（より条件の良い）職場を見つけていくことでしょう。

企業の経営サイドにとっては、厳しい時代の到来とも感じられるはずですが、もともと、見方を変えれば、「現状維持」が至上命題でなくなったということとは、多くのチャンスと選択肢を手にした状況だとも言えるのではないのでしょうか。

選択肢の中には、経営統合や事業譲渡・承継、あるいは円滑な廃業など、いわゆる「出口戦略」も含まれます。これまでの事業で育んだ人材やノウハウ、設備、取引先とのネットワークなどは、貴重な社会的資源です。地域の

限りある経営資源を、打破できない現狀に沈滞させておくのではなく、成長軌道に乗ってきた経済の流れにうまく乗せて、さらなる高みに向かわせること。容易な決断ではなくとも、現状維持の先にあるかも知れない「もう手遅れ」と比べれば、一考に値するのではないのでしょうか。

私たち全ての大人には、次の世代によりよい社会をパスする責任があります。地域の限りある経営資源も、次の担い手が活用できる状態で、大切にしっかりと受け渡したいところ。安定重視のフェーズから、こぞってチャレンジするフェーズに進むためにも、「絶妙なパス」の価値が、もっと表立って、前向きに評価されるようになれば良いと思います。

中国訪問と経済学研究所

大分大学経済学部

教授 市原 宏一

中国への最初の公的訪問は2011年春で、大分大学としての、武漢における大学院同窓生等との交流と、現地大学生への交流教育プログラム新設のためでした。

当時の中国にはまだ極めて強い接待



(2025年3月退職予定)

慣習があり、相当強気でこちらが日程に組み込んだ武漢市内大学の同窓生「交流会」以外は、黄鹤楼や古代重要文化財を保持する湖北省歴史博物館訪問から晩のカラオケまで、新規交流教育プログラム相手大学による「接待」づけでした。なんとか「カラオケ接待」にめげずにこちらの主張を通せたのは良かったです。

他方、振り返ってみると、当時の大学院卒業生は武漢の大学生が中心で、こうした訪問を受けられるだけの卒業生の人脈も厚く、また、在武漢大分市事務所の支援をいただけただけが大きかったように思います。

2017年秋から大学院委員長（経済学研究所の教務・入試担当）になると、その頃既に本学に赴任されていた包先生のご縁により、主に北京の大学からの学生受け入れのために、年複数回志願者拡大に訪問するようになりました。

包先生のホスピタリティとエネルギー

ギッシユな活動量はこれまた早朝から深夜に及んでおり、北はフフホトから南は南京、早朝から晩方、あるときは日本語担当教員と面談し、また、日本語科学生へのガイダンスを行うなど結構ハードな業務をこなしました。包先生ご自身は、もつと多忙なスケジュールをこなしているながら、私のために、北京では天安門、南京では中山陵を見学できる時間を確保していただきました。北京の大学の構内には大学が経営する北京ダックレストランがあり、訪問のたびにおいしい思いをさせていただきましたが、コロナ禍により閉店したとのことで残念なところです。

そうした施設も含め、中国の大学の学問から生活、学生から教職員に至る「包容力」の大きさにも驚かされました。弱まったとはいえあちらの大学の「接待」に感じられるくらいの日本からのお土産選びが（懐具合との相談も含め）なかなか大変でしたが、選んだお土産が先生や学生さんに喜んでもらえるのは、それはそれで楽しみにしていたところです。

コロナ禍をへて、現在では、志願者拡大も入試もリモートで行えるようになったのは、担当の先生方の負担を一定は減らすことに役立っているでしょうが、朝から晩まで、東奔西走したことは、相手先の学生と教育の現状を直に知るにはそれなりに興味深く、絶好

の得難い機会だったなあ、と思いつているところです。

大学院という新たな環境に身を置いて

大分大学大学院経済学研究科

教授 田代 浩



昨年8月、経済学研究科の租税法担当教授として着任いたしました。大学を卒業してちょうど20年、国税庁に入庁し、公務員として実務一辺倒でやってきた私ですが、堅苦しい業務に追われる日々から、若い学生の皆さんを中心とした自由闊達な気風の中に身を置き、専門の学芸をじっくりと教授研究するという新たな機会をいただいたことに、大変やりがいを感じています。

ここ20年を振り返ってみると、働き方やライフコースの多様化、経済のグローバル化・デジタル化、格差問題、エネルギー・環境問題、人口減少・少

子高齢化、財政の構造的な悪化など、日本全体で様々な経済社会の構造変化が生じました。公務員として様々な施策の企画・立案を行ってきましたが、今振り返ると、大きな変化の中にいたことをつくづく感じます。

翻って、20年ぶりに大学に戻ってきて、現在の学生の立場だったらどうだろうかと考えた場合、私が学生だった当時とは状況が全然違うだろうと感じることも多くあります。一番の変化は、よく言われることだとは思いますが、ネット社会が進展し、SNSなど情報ツールが多様化するとともに、情報量が圧倒的に増えたことだろうと思えます。

情報ツールが多様化し、情報量が増えることは、新たな視点を得ることに有益にはなりますが、その一方で、物事の一面のみが強調・拡散されるなど非常に偏った言論が展開され、それが一度定着した場合にはなかなか別の言論が浸透しにくいような状況が生じているように感じます。情報の受け取り方、活用の仕方などは、私が学生だった頃より、はるかに難しい環境に置かれていると思います。そういう環境に置かれている現在の学生の皆さんには、是非、ある特定の言論のみにこだわることなく、意識的に様々な言論に触れ、メリット・デメリットを分析することなどを通じ、多角的に様々

な視点から物事を捉えることができるように学習を進めていっていただきたいと思えます。こうした癖をつけていくことは、卒業後、就職された後にも、例えば公共政策を企画・立案したり、ビジネスを成功に導いていったりする上でも非常に重要なことだと思います。私も、学生の皆さんの意欲には最大限応えるように努力しつつ、新たな環境の中で、自分自身も、日々、アップデートするように心がけていきたいと思えます。

地域運営組織で活躍を！

大分大学経済学部

准教授 山浦 陽一



地域経営・法コース、地域メジャーで農村発展論を担当している山浦です。これまで博士前期課程のゼミ生を4人ほど送り出し、現在も1人担当してい

ます。研究テーマは、中山間地域の農業政策、地域運営組織の設立や運営、地域づくりのモチベーションなどです。ゼミでは、地域運営組織の設立支援、ビジョン策定などの支援、伝統芸能の存続支援、竹林整備の体制づくりなどにも取り組んでいます（詳しくは学生が運営するインスタグラムをご参照ください）。今回は地域運営組織について紹介するとともに、青雲読者の皆様へのご提案をさせて頂きます。

概ね小学校区単位の新たなコミュニティ組織である地域運営組織（Region Management Organization、RMO）の形成が、全国で進行しています。名称はまちづくり協議会、住民自治協議会、地域振興協議会など様々です。皆さんがお住いの地域にもあるかもしれません。大分県は先進県のひとつで、2023年時点で県内全18市町村に120の組織があるとされていますが、全市町村にRMOがあるのは全国でも大分県だけです。一般的には、自治会、公民館、地区社協、PTA、老人クラブ、子ども会など、地域づくりにかかわる組織、団体が参加します。福祉部会、教育部会、防災部会など部会ごとに活動するのが一般的です。行政もRMOへ活動費、事務局人件費や拠点施設の提供などの支援をします。活動は旧来の地域活動にありがちな動員や義務、持ち回りだけではなく、住民の自発的

な参加を引き出せるかがカギとなります。

各種アンケートでは、地域づくりへの関心を持つ住民は少なくないのですが、その潜在力を引き出すためには、中心にマネジメント人材が必要です。「青雲」の読者には、経営戦略や人事など、ビジネスの世界でも近い分野で活躍している方が少なくないはずですが、既に地域活動に関わっている方、定年を控えこれから参加を考えている方もいると思います。地域運営組織では、福祉や教育、防災など各分野でプレーヤーとしての活動も出来ませんが、青雲読者の皆さんには、これまでのスキルや経験を生かして、マネジメント人材、地域の経営者として、中核でRMOの運営を担って頂けると嬉しいです。まずは、お近くの公民館やコミュニティセンターを訪ねてみて下さい。新しい活躍の舞台がそこにあるかもしれません。

量子経済学のすすめ

九州産業大学

専攻…進化経済学、企業システム論
コーポレート・ガバナンス論

院7回生 水口 雅夫

大分大学大学院で薫陶を受けた長坂



先生に大学院ゼミで資本論を第1巻から読んでもらったとき、学部で通読して以来気になっていたStoffwechsel（物質代謝）についてちょっと話したら、先生は、即座に化学産業と元素記号に言及された。マルクスのStoffwechselはその経済学において、企業において、外界から原材料、資本、そして労働（力）（この3者の関係についてのマルクスの説明は省略）等を内部に取り込み、商品を生産して外界に販売する動きを、物質代謝として理解していると、その理解を現代のSDGsにどのようなように当てはめるかともあれ、示しているし、また新陳代謝は旧弊の組織を新しい組織に代替する刷新的機能を理解する概念になっていると考えられる。

先生との先の会話で、議論をどのように進めたかはつきり覚えていないわけではない（一貫した議論を進めるのに必要な知識を十分備えていなかったであろうことが分かったただでも先生に話した意義があると思う）が、価値の価格への転嫁（3巻）で出てくる「投

入産出関係」を含め、資本論体系を踏破しているうちに、Stoffwechselが量子力学（科学史の読み物を高校入学のずっと前から読んでいて、光は粒子——マルクスの盟友の書いた『自然の弁証法』（学部時に入学していた経済研究部で読書会を主宰したのは当時のメンバーと今でもよく話をする楽しい思い出）に微粒子が登場するのは知る人ぞ知る——であり波（波動）であるという物語に接した記憶を思い出し、もとよりそのとき量子力学など知る由もなかった）の理解に通じるのではと、次第に考えるようになった。

さて、多かれ少なかれ時間が流れ、セミコンダクター（SC）やそのSCの上にアルゴリズムをのつけた昨今のAIやGenAIが、経済論議でも取り沙汰されるようになると、プランクが切り開いた量子論上で、シュレジンガー波動方程式とハイゼンベルク行列力学が定式化した量子力学は、現代情報経済の仕組みを理解する際に、有益であると気がついた。

電子機器としての情報デバイスに搭載されているSCや高校英語の授業で聞いた集積回路では、上記微粒子としての光ならぬ、物質を構成する原子核を周回している電子が登場し活躍する。物質構造論では、物質の種類によって、自由電子を含むものとそうでないものがあり、自由電子を含まない物質は絶

縁体であり、含む物質はその割合によつて分類され、多いものが伝導体であり、少ないものが半導体であり、後者に電荷をかけると、自由電子が増大する（電導性が増大する）。この最後の物体の特質を利用してスイッチング機器等として製造されるのが右記情報デバイスに搭載されるSCである。

かかる物質構造としての半導体の特質を理解することが、現代のAIまたはGen AI（ごく最近の格安で開発されるとされるAIやそれに対抗する巨大投資の動きも報じられている）に搭載されているSCの、したがって情報デバイス製造における投入産出関係（最近は、SDGsの関係かともあれ、電動自動車（EV）向けのSC投入は伸び悩んでいるとの報道がある）を理解するカギである。

以上の私の議論は、教養科目の一つである自然科学やより踏み込んだアリストテレス自然科学などを注意深く聴講し、また先の読書会などを自主的に行えば、理解できるはずだが、怠惰なforged economistは、話が飛んだとしか言わないのであろうか。

私の趣味はランニング！

別府市副市長

院8回生

阿部万寿夫

（青雲会副会長）



「趣味は？」と問われれば、「ランニングです」と答えます。

10代の頃、柞原八幡宮への初詣で見かけた、坂道を黙々と走るランナーが恰好良かったのが；きっかけだったかな？「あんな風に走ってみたい！」と憧れを抱いたことを覚えています。

本格的に走り始めたのは大分県職員になってから。初任地（日田）で同好会に入り次第にのめり込み、すぐに国内外のレース（ホノルルマラソンやローママラソン）にも参加するようになりました。

そんな私は朝ラン派。ほぼ毎朝5時から近隣の神社仏閣に参拝がてら1時間ほど走ります。今朝も「別府市民にとって幸せな1日となりますよう

に！」と八幡朝見神社で手を合わせました（その筈）。走った後は大きな声で般若心経を唱えながらシャワーを浴びるのが若い頃からの日課（笑）。ん？今年の初詣ですか？勿論、柞原八幡宮に走って詣でましたよ。

また、国内外問わず出張先でも朝ランしています。昨年11月に中国煙台市を訪れた際も、「挙動不審で捕まらんかなあ？」と少々怯えながら、寒風吹きすさぶ渤海湾沿岸を走りました。

直近のレースとしては、昨年12月1日開催「宇佐神宮マラソン大会」ハイマラソンの部に出走。1時間44分30秒とお粗末なタイムながら、60歳以上の部で4位と好成績。内心密かに、来年の表彰台をロックオン！

そんな私の「走る」理由ですが、「健康維持のため」というのは表向き。「こだけ走ったんやから今晚は飲んで良いやろ」と、「晩酌の免罪符」にしているのが本音のところ。

また、どんなに落ち込んだ時でも走ると前向きになれるという効能も漏れなく付いてきます。走っていると最後には「まあ、何とかなるわあ〜」と本気で思えて来るから摩訶不思議。所謂「ランニング・ハイ」ですかね？

あと、各種課題解決にも効果観面。我が身に降りかかった無理難題も、走っていると（使っていない脳が活性化されるのか？）何故か妙案が浮かん

て来ます。しかし厄介なのが、帰宅後にシャワーを浴びると思いついた妙案まで流れてしまうこと。シャワーの前にはメモが必須の毎日です。

還暦を過ぎた私の身を案じてか（？）年老いた両親から「良い歳なんやけん、そげえ無理して飛び（走り）なさんな」と諭されますが：「足腰丈夫なうちは走りたいんや」というのが偽らざる気持ち。私にとってランニングは、元氣・気力の源、若さ（馬鹿さ）の秘訣。毎日を明るく生きる極意です。

そう言えば、昨年11月、あの増田明美さんと酒を飲みながらゆっくり話をする機会に恵まりましたが、その際「走ると、体と心の贅肉がとれますよね」と話されたことが強く印象に残っています。

走り方や走る理由は人それぞれ。無理せず、楽しく、継続することが何より大事だと思えます。何ていったって「趣味」ですから。

えっ？「別府の副市長だけに、言（湯）うばかりやなあ〜」ですって？そこについては：特に否定いたしません（笑）。

情報生産者になりたい

大分県農林水産部農地計画課

院25回生 久住 真和



2003年3月修了の久住です。皆さん、いかがお過ごしでしょうか。私は社会人としての大学院生時代、経済学研究科の先生方はもとより、実に多才な同窓の方々から刺激を受けながら、学問に向き合う豊かな時間を過ごすことができました。土居昌弘竹田市長をはじめ、多くの同窓の皆さんがさまざまな分野でご活躍されています。

こちらの近況として、私は今年3月で職場の役職定年を迎えます。職業人生の岐路にあたり、今後はどのような道を歩んでいこうかと、あれこれと案を重ねました。そして本誌が発刊される頃には新たな進路を定めて歩み始めていくことでしよう。いずれにしても心がワクワクする方向へ向かっていきたいと思っています。

さて、社会学者の上野千鶴子先生の著書に『情報生産者になる』という新書があります。大学のゼミ生など、研究の道を志向する方々に向けて新たな知を生み出す技法を示したものです。本書の紹介文では、「情報があふれかえる時代、それを消費するだけではなく、価値ある情報を生産し、発信する側にまわる方がずっとおもしろい」と記されています。かつて大学院に籍を置いた者として、内容的にも大変共鳴するものがありました。

大学院在籍時には、同窓の皆さんと同様に修士論文の取りまとめに多くの時間とエネルギーを注力しました。私の論文のテーマは「地方分権時代の法定外目的税に関する考察 ―廃棄物・リサイクル対策を事例として―」です。論文の執筆は、仕事と並行しながら、厳しい期間でしたが、同時に充実した日々でもありました。今でも時折論文を眺めることがあります。時間的制約の中でもう少し取り組めた点があったのではないかと思うことがあります。今後は少し時間的に余裕ができそうなので、論文執筆20数年経過後のトレンドを踏まえて、タイミンングを見計らいながら修士論文の内容更新に挑んでいくのも面白そうだなと思いをふくらませていきます。皆さんも一時期情熱を傾けた研究テーマにもう一度向き合ってみてはいかがでしょうか。

土づくりと稲作

甲斐税理士・中小企業診断士事務所

院34回生 甲斐 幸丈



これまでもプライベートでは、大分県人権教育・啓発推進協議会の人権啓発講師などとして、社会的に有用な情報の提供に努めてきましたが、今後はこれまでの様々な制約から解放される中で、価値ある情報の生産、発信に取り組みむなど、社会の役に立つ情報生産者になることを目標に、ワクワクする時を重ねていきたいと思っています。各先生方、並びに同窓の皆様方には、今後ともよろしくお願い申し上げます。

昨年10月13日の稲刈りをもって、稲作の主要年中行事が終わりました。椎茸と米作りを生業としていた父が平成7年に病で倒れ、急転直下実家のコメ作りをやらざるを得なくなり、ほぼ35年たちました。妻の『有機無農薬

のコメ作りなら手伝う』という甘い言葉に乗ってしまい無農薬に挑戦、初年度は多くのコメ粒に斑点が入り大失敗しました。その後、専門書を読んだり、山香町の無農薬農家を訪ねたりして教えを乞い3年間かけて徐々に農薬や化学肥料を減らして、本格的な有機無農薬の農業を目指し、一番上流の綺麗な水が流入する田んぼ（約2反）で実践してきました。

毎年3月は有機肥料としてのぼかし作り、5月に数回の耕運、6月の田植、7月から8月には土日の早朝、田んぼの雑草取りと畦の草刈り、4か月間の水の管理（来年からはネットで遠隔管理）に明け暮れています。

毎年このことですが、好きなゴルフも中断して、汗びっしょりの夏を過ごしています。お陰様で良いことも。私も妻も骨密度はこの年代では高水準だとか、また9月の肺活量検査で5000ccを超え、ピーク時よりやや落ちたものの高い肺活量を誇っています。

水田にはミミズやカエルがたくさんいるため、それを追い求めてシラサギや蛇も出現します。秋になるとあちらこちらでクモが巣を張り巡らせ、たくさんさんのトンボが舞い、虫対策をしてくれます。まるで田んぼ全体がオーケストラの劇場のようです。

化学肥料と農薬に頼った田んぼは地



力を失うせいか毎年収穫量が減少して行くとのことですが、無農薬や減農薬の田んぼは一反当たり約9俵(60kg/俵)の収穫が続いています。主として親戚や知人に配付しているのですが、「魚沼産のコシヒカリに負けていない食味」とのお褒めの言葉を頂くと苦勞も忘れてしまいます。

企業の成長も土づくりと同じだと思えます。基本的に健全な組織づくり人づくりそして会計の仕組み、熱い思いがなければ、企業の継続した成長は出来ません。

【名刺のロゴマークについて】

今年、創業10年を迎え、さらに大きく成長を続ける組織であることを願い、

顧問先のデザイナーに相談して当事務所のロゴマークを作成しました。意味するところは以下の通りです

『健全な稲(企業)を支えるのは、田んぼの土壌「麦わら帽子をかぶった人」であり私や事務所職員』という意味です。



学ぶことの最終目的

九州福祉医療サービス(株) 大分支店長

院38回生 道頭 孝憲



私は2016年3月に博士課程前期課程を修了し、今回2回目の寄稿になります。2024年7月に33年間勤めた大分銀行を定年退職し、現在は大分市田尻の九州福祉医療サービス株式会社に勤務をしています。当社は大分支

店(本社)と佐伯支店の2拠点があり社員19名。私の所属する大分支店は11名の会社です。

取扱商品は酸素吸入を必要としている患者様に酸素濃縮器を、また睡眠時無呼吸症候群の治療に使うCPAPという機器を、医療機関を通じてレンタルしています。また施設やケアマネジャーを通じて介護用品のレンタルも行っており、社名の通り「福祉」と「医療」で地域に貢献している会社です。

大学院では仲本大輔先生のゼミに所属し、経営戦略論をメインにご指導をいただきました。卒業後は大分銀行で営業戦略部勤務および3支店の支店長を務め、ご指導いただいた内容を実践する機会をいただきました。

銀行を卒業するにあたり、第二の人生はどのような道に進むかを悩み、考えていました。大学院時代に教わった「学ぶことの最終目的は人に伝えること」の言葉を思い出し、県内の企業で働き、社会への恩返しをしたいと決めました。現在は、社長の傍で「営業」「経理」「人事」「戦略策定」など経営に必要な様々な業務を指導いただき、時には意見交換をさせてもらうなど恵まれた環境で勤務しています。

先日、とても貴重な経験をしました。1月13日21時19分に日向灘沖地震が発生し、大分市は震度4、揺れも長時間

に及びました。携帯電話を見ると、グループLINEへ若手社員から自身の安否報告と他の方への呼びかけが発信されており、全員が返信。驚いたのはその後で、会社の近くに住んでいる別の若手社員が事務所向かい、社屋と酸素ボンベ保管庫の状況を確認し無事を報告。私の出番はなく、20分前から社長への全ての報告が完了しました。風通しのよいフラットな組織だとは感じていましたが、このような有事に誰かの指示を待つのではなく、年齢や職位に関係なく初動を起こせる意識を持っていることに感心しました。少人数組織の強みは判断のスピード感であり、その強さを目の当たりにした次第です。

今の私は、社員の中で間違いなく一番仕事を知らない状況で不安もありますが、それ以上に新しい出会いと学びへのワクワクの方が大きく上回っています。第二の人生に自信と希望を持って進むことが出来たのも、大学院での学びがあったからだと思います。卒業はしましたが、先生の皆さま方にはこれまでと変わらぬご指導を、また同窓の皆さまには温かい応援をお願いしたいと思います。もし3回目の寄稿機会をいただいた時には、内容の濃い、素晴らしい報告が出来るように社会への恩返しを行っていきます。

one step at a time

経済学研究科経済社会政策専攻
政策科学コース1年

現役院生 片岡 大



私は鹿児島県出身で2020年4月に大分大学経済学部に入學しました。2020年は、世界中で新型コロナウイルスが蔓延し始めた年で、高校の卒業式は簡素化され大学の入学式は中止になるなど、大学生になった実感もありません。不安なスタートとなりました。ですが入学以降は、様々な分野の先生方からご教授をいただき、高校までのように試験のための勉強ではなく、答えが用意されていない問いを考えることに興味を持ち、2024年4月からは大分大学経済学研究科に入學し、現在は税法について研究しています。

くるような情報や世間のイメージと大きく違っていました。入學するまでは大学院は大学の延長だと考えておりましたが、大学と違い、講義も主体的に学ぶことが前提に考えられており、人に無理やり勉強させられているのではなく、自分が好きなことを好きなように勉強でき、これまでの学生生活の中で自分に一番合っている環境だと思っております。

入学以降、勉強以外にも周りの人の行動から学べることは多々あり、特に強く感じたのは、結果を残している人は、人が見えていないところで努力しているということでした。先生方や大学院生を見てみると、目標を達成するためには何が必要なかを明確にしながら実行し、習慣化しています。大学院に入り、研究や学問は一日や二日で解決したり、身についたりするものではなく、いかに自分で決めたことをやり抜くことができるかが大事だと気づかされました。このことは今後社会で活躍するためにも重要なことだと感じております。

大学以降の勉強は、机に向かって何かを覚えたり計算したりすることだけではなく、アルバイトやサークル、趣味を見つめるなど色々な経験をすることが勉強だと思っています。その中で私は自らの目標に向けて大学・大学院の6年間は研究や学問に比重を置く選

択をしました。回り道や遠回りをしていくような気分になったり、1つの壁を乗り越えたとまた新たな壁が現れる日々ですが、勉強だけに集中することができるとこの贅沢な環境は、家族や先生などたくさんの方の支えによって成り立っています。このような環境に身を置けるのも残すところあと1年です。修了後、そして何十年か後に、自分がどこで何をしているか想像もつかないですが、自分だけのためではなく、自分の周りや社会に貢献できる存在になれるように、残りの1年間、周りへの感謝も忘れず、今この瞬間を大事にして根気強く、ひたむきに日々の質を向上させていきます。

人生、始めるのに遅すぎることはない

経済学研究科地域経営政策専攻

現役院生 阿南 寿和



私は、これまで、大分県職員として1979年から36年間、その後、別府市において副市長として2015年から8年間、都合44年間地方公務員として勤務してきた。1956年生れで、来年1月には古希を迎えることになる。

今後の人生は、社会への貢献、地域への貢献につながるようなことができればと考えている。

具体的には、現在、中小企業庁の設置相談所である「大分県よろず支援拠点」でコーディネーターとして働いているが、これまでの様々な経験や大学院での学びを活かして、新たに創業を検討している方や県内の個々の企業から相談を受け、色々な面で総合的な支援をしていくようなことができると考えている。

これまでを振り返ると、県庁の土木建築部にいた頃、公共事業が大幅に削減されつつあった2000年辺りから、建設業の新分野への転換が叫ばれており、建設業から異業種への進出をすすめる立場にいた。しかしながら、結果として異業種への転換は、うまくはいかなかった。指導する立場の私が、経営についての知識もないような有様で当然の結果であった。

また、2008年頃から、表面化した株式会社九州乳業の経営危機の際にも、県庁の立場で金融機関の方々に対し、多額の債権放棄や新たな運転資金

の提供を求めたり、経営再建計画の策定や事業の継続を主眼に承継する事業者を探すことに取り組んだ。

さらに、九州乳業と同時期に経営危機に至っていた株式会社大分FCについては、約20億円の債務超過があり、九州乳業の場合と同様に運転資金の確保等に向けて、Jリーグ、金融機関などの交渉やシーズンパスの売り上げ促進、新たなスポンサーの獲得などに奔走した。

しかしながら、私自身、経営についてノウハウを持ち合わせていた訳ではなく、その場、その場でできることをしてきたのみで、当時、少しでも経営ということについて、知識能力を持ち合わせていれば、それぞれの問題の展開も変わっていたのではと、今思うところである。確かな知識能力に基づく根拠を持った判断、行動が必要とされていたわけである。

また、県庁退職後、別府市では、副市長として市政全般に関わるとともに、「一般社団法人 別府市産業連携・協働プラットフォーム Biz LINK (ビービズリンク)」の理事長として約6年間、観光業に代表される別府市の産業振興に取り組んできた。

Biz LINKの観光マーケティング、組織等のあり方について大学院で研究し、そのあるべき姿について色々な提言を行っていくことにより、別府市に

関わってきた者として、別府市のさらなる発展に寄与できればと考えている。

大学での専門は農学（農業機械）であったが、県へは行政職員として入庁し、折に触れて、経営学に関する知識能力の不足を感じていた。遅ればせながら、大学院で経営学について、学びを進めたいと考え、入学したわけである。

これまで、長い人生を歩んできたが、還暦を過ぎて別府市でもそれぞれの場面で色々な形で学びがあり、成長を実感することができた。人生において何かを始めるのに遅すぎることはないと言いますし、大学院進学により新たな展開があると考えている。

大分大学大学院での生活体験

経済学研究科

現役院生 呉 若水



今年、私は大分大学経済学研究科大学院で生活のスタートを切りました。

日本での生活は私にとって諸多の挑戦でしたが、一歩一歩、広い知見を得る準備ができています。この経験は一生の宝であり、日々新たな気づきを与えてくれます。

私は「社会人の観点から学ぶ」ことを目的とした課題研究の授業に参加し、大分県の経済や文化をより深く理解する機会に恩恵を感じています。大分県のことはこの講義を通して初めて知ることも多く、地元の人たちの活動や社会についての観点を学ぶことができました。これは単に知識を増やすだけではなく、地元の文化を実感できる大切な機会と思います。

学業のみならず、私は大分県を楽しむための多様な旅行やイベントに参加しました。別府の各温泉の催しものに参加したり、大入島での年越しイベントに参加しました。特に大入島でのイベントでは、大きな木を燃やす光景が完全に視覚を驚かせました。このような地元ならではの経験は、私の心に深く残り、学習の意欲を高めてくれます。他にも、大分県内で開催された多様な一日旅行に参加し、大分県の経済の要所や自然の美しさを育む印象的な地方を訪問するなどして、学生として課外の満足を実感する日々を送りました。大分県の外にも出向き、特に東京や

富士山への旅は最大の出来事でした。

神社の跨年行事に参加する中で、日本文化の方面を深く理解しました。日本人の細節を重視している精神を見つけたように毎日の生活が珍重に活かされているかを実感できました。都会の豊かな生活の中に日本の多様性はすべて私の記憶に深く刻まれ、学習背景を広げました。また、東京の旅では精緻な食文化や実習的な私鉄の交通系統にも感動し、人々の生活の利便性について深く思いを刻むことができました。

最後に、私は大分大学大学院に参加できたことを心から感謝しています。日本でのこの経験が私の成長の重要な一部となっており、これからも新しい挑戦に勉めたいと思います。

未来への架け橋 〜日本での学びと成長〜

経済学研究科経済社会政策専攻2年生

現役院生 宋 雨薇

私は中国の武漢出身で、現在、大分大学経済研究科経済社会政策専攻の2年生、宋雨薇と申します。日本での学びや経験を通じて、多くのことを吸収しながら日々成長しています。

日本での生活は、期待と不安が入り



混じるものでした。初めての環境、異なる文化、そして言葉の壁―すべてが新鮮でありながら、戸惑うこともありましたが、しかし、多くの方々の支えもあり、一歩一歩前進できました。

研究活動を通じて、経済学の理論を実社会に応用する方法を学びました。授業でのディスカッションやゼミでの発表を通じ、思考が深まり、視野が広がりました。また、留学生会館のチューターとして、留学生同士の交流をサポートする活動も行っています。異なる文化的背景を持つ留学生が円滑にコミュニケーションを取れるよう手助けする中で、多様な文化への理解を深め、異文化間の橋渡しの重要性を学びました。

さらに、興南アジア国際奨学財団の活動に参加し、鹿児島を訪れる機会がありました。現地の美しい自然を満喫し、黒豚しゃぶしゃぶやさつま揚げなどの名物料理を味わうことで、その土地の文化を体感しました。

弁護士翻訳協会にも参加し、法律関

連の翻訳活動を通じて、専門的な言語の使い方や異なる法体系の理解を深めました。この活動を通じ、日本の法制度や国際的な視点についての知識を広げることができました。

また、日本のドラッグストアでのアルバイトを通じて、日本人のお客様や同僚と接する機会を得ました。接客を通じて、スムーズなコミュニケーション方法や、日本ならではの細やかな接客マナーを学びました。職場の方々から温かいサポートを受け、多くの友人を作ることができたのも、とても貴重な経験となりました。

大学院生活で最も印象に残っているのは、人との出会いです。日本人のクラスメートだけでなく、世界各国から集まる留学生と交流することで、多様な価値観に触れることができました。お互いの文化や考え方を尊重しながら議論を交わし、新たな視点を得ることができました。

学業だけでなく、日本での生活も楽しむよう心がけています。友人と旅行に行ったり、美味しい食事を楽しんだりする時間は、日々の活力になっています。特に、大分の温泉巡りは私のお気に入りのひとつです。日本ならではの風景や文化を体験し、この国への愛着がさらに深まりました。日本での留学生活は決して楽ではありませんでしたが、その分、多くの学びと成長があ

りました。この経験を大切にし、これからも前向きに歩んでいきたいと思えます。

スポーツを通じて日本の地方圏を理解する

経済学研究科・博士後期課程1年生

現役院生 吳^オハヌン



初めまして。吳^オハヌンと申します。出身は韓国です。大学生の時から来日している今年で8年目になります。本学の経済学研究科には博士前期課程から入学し、いまは博士後期課程に在籍しております。ちなみに研究テーマは、「元プロスポーツ選手たちがスポーツまちづくりを軸にして地方圏で多様な暮らし方をしている事例」について研究しております。一見すると、経済学研究科でスポーツを研究していることは珍しいかもしれませんが、その背景には私の個人史があります。

私の夢は元々、プロサッカー選手だったので、韓国で小学生から来日して大学生までずっとサッカーをやってきました。日本のJリーグを目指して来日しましたが、やはり、プロ選手になることに厳しさを覚え、見切りをつけて、当時のゼミの先生のおかげで勉学の道に切り替えました。10年ぐらいサッカーと係わってきた人間ですが、そこで思ったことは、みんな、夢に対する熱意と努力はさほど変わらないですが、現実には必ずしも努力通りに成果が出るとは限らないことでした。重要なのは、スポーツ選手からすれば、それが現役引退に繋がることであり、その後、どこで、どのような仕事をして、どのような人生観をもって暮らすのかということだと思えます。

その際、一般にはスポーツ選手が現役引退後、会社に再就職してお金を稼ぐ、あるいは、副業としてスポーツ指導者をやるという暮らし方が想定されやすいですが、私が研究を通じて見えてきた事例は必ずしもそうではありませんでした。企業の就職に縛られず、各地域でスポーツ教室を開設し、子どものチームを作り、練習や大会参加をするようなスポーツまちづくりを生業にしている「多様な暮らし方」の事例がありました。ずっと都市圏でしか暮らしていかない私にとっては新鮮でしたし、いろいろな考え方や暮らし方が実在し

ていることを実感しました。

私は、いまでも大分県でスポーツ活動を絶えずやっています。毎週日曜日はフットサル練習試合を、金曜日と土曜日は「総合型地域スポーツクラブ」のスタッフとして、子どもスポーツ活動と係わっています。言葉でうまく表現は出来ませんが、私が見てみた都市圏の雰囲気とは違う感じでした。要は、スポーツを通じて生計を立てている人々、子育てをしている保護者の方々、スポーツ活動を楽しむ子どもたち、また、スポーツ活動を通じて趣味活動をしている社会人の方々など、スポーツを窓にして地域を見ると、様々な人々の経済・社会活動の姿が見えてきました。

私は、博士研究の傍らにスポーツを通じて日本の地域経済社会、ひいては、地方圏への理解を深めようとしています。これからも大分大学という地方圏所在の大学院生として、地方圏を頑張って研究していきます。

四極会100周年祝賀会のご案内

四極会幹事・四極青雲会事務局長

院1回生 木本 英光

四極会は大分大学経済学部同窓会です。1922年(大正11年)に経済学部の前身である大分高等商業学校(通称「高商」)が設立され、3年後の1925年(大正14年)3月に高商第1回生が卒業して、四極会の前身である「大分高等商業学校同窓会」が発足しました。それから100年、今年、四極会は100周年を迎えます。

2年前に経済学部の創立100周年記念の行事が開催されたところですが、コロナ禍の中で記念祝賀会は中止となり、寂しい思いをした同窓生が多いと思われまます。そのこともあって、四極会では同窓会発足100周年を祝う祝賀会を開催することにしました。

一つとしては、7月5日(土)17時からレンブラントホテル大分にて400人規模の祝賀会を開催することになっています。これは全国支部長会議の開催に併せて開催するもので、県内では大分支部と別府支部が共催することになっていきます。もう一つは、2025年度に各支部で開催する総会に合わせて各支部で祝賀会を開催していただく

ことにしています。今のところ開催日程がわかつている支部は次の通りです。関西四極会…4月20日(日)大阪ガイデンパレス。名古屋支部…5月31日(土)アイリス愛知。東京四極会…6月1日(日)アリスアカーガーデン町。

経済学研究科の修了生は、他大学卒業生からの入学や留学生の入学もありますが、四極会の会員資格があることになっていきます。(一般財団法人四極会組織運営規程第5条(会員の資格)の中に、「正会員」として「大分大学大学院経済学研究科を終了した者」と規程)もちろん入会金を収めていただくこととなりますが、同窓会活動は、会員相互の親睦・交流や研修等に参加することで様々な人との出会いがあり、人生の彩を増やすことができると思われまますので、青雲会会員の皆さんも是非とも四極会のイベントに参加していただきたいと思えます。特に今年「四極会100周年の節目」ということで、各支部の総会・祝賀会に是非とも参加していただきたくお願い申し上げます。

別添に全国の支部の一覧を掲載しますので、お近くの支部に一報を入れて、各支部の祝賀会に参加いただきますようお願いいたします。

一般財団法人四極会支部名簿

R7/2/10 現在

| 支部名 | 役職名 | 氏名 | 回期別 | 電話番号 | FAX・携帯 |
|-------|-----|-------|-----|------------------|---------------|
| 東京 | 理事長 | 奥川 隆生 | 大23 | 03-3838-6605 | 080-9155-2515 |
| | 事務局 | 小林 伸彦 | 大33 | 044-540-0110 | |
| 名古屋 | 支部長 | 下田 辰己 | 大23 | 0561-85-2196 | 090-4113-0770 |
| | 事務局 | 牧 晋二 | 大27 | 0562-48-8972 | 090-8541-6882 |
| 関西 | 会長 | 和田 安生 | 大24 | 079-565-5236 | 090-9863-4547 |
| | 事務局 | 松尾 信 | 大26 | 072-843-6755 | 080-4640-8267 |
| 岡山 | 支部長 | 宮原 宏次 | 大26 | 086-232-4260 | 090-2290-5762 |
| | 事務局 | 福田 啓亮 | 大52 | (勤) 086-267-2100 | 090-3170-5698 |
| 鳥取・鳥根 | 支部長 | 坂本 直 | 大17 | (勤) 0857-50-0375 | 090-9981-3873 |

| 支 部 名 | 役職名 | 氏 名 | 回期別 | 電話番号 | FAX・携帯 |
|---------|-----|-------|-------|------------------|-------------------------------|
| 広 島 | 支部長 | 小山 文人 | 大 3 7 | 082-248-5861 | 090-4690-8976 |
| | 事務局 | 中山 晴喜 | 大 3 4 | 080-6244-6130 | |
| 山口・防府 | 支部長 | 清澄 邦夫 | 大 6 | 0835-22-6291 | |
| 宇 部 | 支部長 | 荒岡 伸司 | 大 2 9 | (勤) 082-263-4678 | 090-5128-5420 |
| | 事務局 | 松浦 正彦 | 大 3 7 | (勤) 0836-31-7230 | 090-4895-3605 |
| 下 関 | 支部長 | 久保憲一郎 | 大 2 3 | 083-246-3659 | 090-5265-1703 |
| 松 山 | 支部長 | 安並 修 | 大 4 1 | | 090-4971-8231 |
| 福 岡 | 支部長 | 待井 弘道 | 大 2 7 | 092-762-5964 | 090-8626-5936 |
| | 事務局 | 新藤 正隆 | 大 4 5 | | 090-2857-1700 |
| 北 九 州 | 支部長 | 久保 恵一 | 大 2 1 | | 090-4981-5506 |
| | 事務局 | 寺田謙次郎 | 大 3 2 | 093-451-5662 | |
| 筑 豊 | 支部長 | 渡邊 泰信 | 大 2 7 | 0947-32-2070 | 090-7161-7487 |
| | 事務局 | 長谷川亮一 | 大 5 7 | 0948-22-5500 | 090-1367-3539 |
| 大 牟 田 | 支部長 | | | | |
| | 事務局 | 松尾 修市 | 大 2 0 | 0944-55-2440 | |
| 佐 賀 | 支部長 | 村井 泰人 | 大 2 9 | 090-5479-6841 | |
| | 事務局 | 喜多 正美 | 大 3 7 | 0952-32-1676 | |
| 長 崎 | 支部長 | 丸山 一郎 | 大 2 5 | 095-826-0575 | 090-2966-9030 |
| | 事務局 | 内堀 泰明 | 大 3 0 | 090-9402-7428 | |
| 佐 世 保 | 支部長 | 永石 泰昭 | 大 2 2 | 090-8767-8124 | |
| | 事務局 | 浦 哲二 | 大 4 0 | 0956-23-1141 | |
| 熊 本 | 支部長 | 黒瀬 英夫 | 大 2 9 | 096-364-0116 | kurose@shokei-gakuen.ac.jp |
| | 事務局 | 高永 洋志 | 大 4 8 | 090-5383-1209 | |
| 鹿 児 島 | 支部長 | 田中 博幸 | 大 3 2 | 099-226-3200 | 090-5935-1222 |
| 宮 崎 | 支部長 | 梅崎 裕一 | 大 2 7 | 090-1929-4188 | |
| | 事務局 | 岩下 博明 | 大 4 1 | 職場070-1216-7592 | |
| 延 岡 | 幹 事 | 小田 敏弘 | 大 2 9 | 0982-34-0448 | 0982-33-7061 |
| 都 城 | 支部長 | | | | |
| 沖 縄 | 支部長 | 仲座 亮多 | 大 5 5 | 080-1544-4328 | |
| | 事務局 | | | | |
| 大 分 | 支部長 | 高野 浩子 | 大 3 4 | 0977-21-5311 | |
| | 事務局 | 阿部 通正 | 大 2 6 | 097-538-2462 | |
| 別 府 | 支部長 | 宮川喜久生 | 大 2 6 | 090-8915-2532 | |
| | 事務局 | 古田 哲一 | 大 3 3 | 0977-22-1181 | 090-3663-0877 |
| 中津・豊前 | 支部長 | 吉森 彰宣 | 大 2 0 | 090-4890-2396 | |
| | 事務局 | 石井 康司 | 大 4 0 | 0979-22-0414 | 0979-22-3123 |
| 宇佐・高田 | 支部長 | 廣崎 雅澄 | 大 2 9 | 0978-34-7533 | 080-8388-0193 |
| | 事務局 | 田邊 靖史 | 大 3 4 | 0978-37-1551 | 080-3958-7602 |
| 速 杵 国 東 | 支部長 | 吉良 正英 | 大 2 2 | 0977-72-4612 | 090-4775-3506 |
| | 事務局 | 宮本 優希 | 大 5 1 | 0977-73-3125 | miyamoto.yuki@town.hiji.lg.jp |
| 日 田 | 支部長 | 佐藤 学 | 大 3 4 | 090-5294-4035 | |
| | 事務局 | 森崎 郁朗 | 大 3 3 | 0973-29-8888 | 090-4480-8456 |
| 玖 珠 | 支部長 | 森 昌哉 | 大 1 9 | 090-4483-6332 | |
| | 事務局 | 後藤 智教 | 大 5 0 | 0973-72-1115 | |
| 臼 杵 | 支部長 | 武口 秀樹 | 大 2 8 | 0972-63-8811 | 090-1920-4079 |
| 津 久 見 | 支部長 | 石井 康補 | 大 3 1 | 0972-82-3050 | yishii@todaka.co.jp |
| | 事務局 | 川野 英司 | 大 4 8 | 0972-82-6111 | 090-2502-2972 |
| 佐 伯 | 支部長 | 西谷 昭弘 | 大 2 2 | (勤) 0972-58-2744 | 090-2582-1940 |
| | 事務局 | 庭瀬紘太郎 | 大 5 7 | 0972-22-3973 | 080-5263-7818 |

*職場支部等は省略

第14回四極青雲会総会

第14回四極青雲会総会を、令和6年5月18日17時より、トキハ会館5階「カトレアの間」で開催しました。例年センチュリーホテルで開催していましたが、懇親会費の値上がり等の理由で今回から開催場所を変えました。24名の方が参加してくれました。(総会・記念講演23名、懇親会20名)

最初に記念講演では、西南学院大学人間科学部・大学院人間科学研究科教授の門田理世氏から、「子育てを社会化する…0歳児からの教育が社会に与え



る影響について」と題して講演をしていただきました。門田氏は院1回生の高栢真一氏の奥様で、伊藤会長からのたつてのお願いでご講演を引き受けていただきました。専門は「乳幼児教育」で、大学での教鞭の傍ら全国保育士養成協議会理事や福岡県や福岡市の子ども子育て関連の会議や審議会の委員として活躍されています。

講演では、乳幼児教育を重視する根拠を、①経済的視座、②社会改革の視点、③子どもの発達を保障する視点から、実践例を挙げながら説明していただきました。参加者からは「目からうろこ」「大変興味深い」「勉強になった」等の声が聞かれ大好評でした。(後掲の「講演要旨」参照)

記念講演の後18時から総会を開催。最初に伊藤会長から挨拶があり、続いて事務局から令和5年度事業報告、令和6年度事業計画(案)、決算・予算(案)が提起・説明され、参加者の拍手で議案は承認されました。

活動報告では、第13回総会、第23回・第24回の定例会(イノベータータイプ経済セミナー)を開催したこと、それぞれのイベントの後に懇親会を開催して交流したこと等が報告されました。

令和6年度の事業計画(案)は次の通りです。1、会員間の親睦に関する事業として、(1)総会の開催(第14回総会の開催)、(2)イノベータータイプ

セミナーの開催、(3)懇親会の開催、(4)その他(必要に応じた交流会等の開催)。2、会員名簿の作成並びに会報の発行、(1)会員名簿の整備を図る、(2)会報の発行(第14号を令和7年3月発行)。3、その他(セミナー等への参加の呼びかけ)

総会のあと18時30分から懇親会を開催しました。1年ぶりの懇親会ということで、皆さんから近況報告をしていただくなど楽しいひとときを過ごして解散しました。総会参加の皆様、お疲れ様でした。ありがとうございました。

(記念講演要旨)

○乳幼児教育を重視する根拠として、
①経済的視座から。乳幼児期への公的資金の投資が最も効果的な投資である。質の高い幼児教育・保育は潜在成長力を高める最も効果的な戦略。子どもが成人した時点での税負担能力を高め、社会政策費用を抑制する。乳幼児教育の社会に与える効果…個人へは基本的な生活習慣の確立、社会参加の活性化。社会へは健康な人間社会の形成、よき集団の形成、生活における安全性の確保。地域経済に与える影響…乳幼児教育機関への補助は地域における雇用機会の増加と所得の増加につながる。

○②社会改革(福祉・労働)の視点から。質の高い乳幼児教育は社会への

還元率が高い(経済的・社会的貢献が高い)。乳幼児教育を整備することで、保護者、とりわけ女性の就労を向上させる(国力の維持・向上への貢献)。子どもを健全に育成することは国家・社会全体で負うべき責務であり、子どもの貧困や就学不均衡を是正する。

○③子供の発達を保障する視点から。乳幼児期に培ったスキルと学びが生涯の成果の予測因子となる。特に、子どもの言葉の環境は重要。言葉の発達は認知的、教育的、社会的発達を支える。3歳時点で言葉の発達が乏しい子どもは介入を施さないとリスクが大きくなる。(青雲会事務局)

第24回四極青雲会定例会 —イノベータータイプ経済セミナー— として大分大学大学院経済学 究科と共催—

開催日時 令和6年3月9日(土) 17時~18時
場所 J・COMホルトホール大分 2階
サテライトキャンパスおおいだ講義室

演題

「地域資源管理の主体と客体を巡る法的問題—特に農業用ため池について—」



講師
大分大学経済学部経営システム学科
准教授 亀岡鉦平氏
参加者
青雲会会員、現役院生、大学関係者
等 20名

今回のイノベータータイプ経済セミナーは、大分大学の亀岡鉦平先生にお願いしました。先生の研究分野は「民法、法社会学、農業法」で、研究内容としては「第一次産業における財産権の経済的実現構造の解明に関する研究」と



されています。

セミナーの冒頭、大学院委員長の宮町先生から挨拶とセミナー開催の趣旨が説明されました。講演では、まず、地域資源管理の客体である農業用ため池を巡る問題として、農業用以外の用途利用の増加に伴い、ため池に対する法的説明を精緻化する必要が生じつつあることが指摘されました。続いて、管理の主体として土地改良法に基づく法人である土地改良区が取り上げられ、団体数等の概況の解説、その組織特性や制度上の課題について説明がありま



した。

講演には土地改良区関係の方も参加していて、講演後に感想と質問が寄せられ、大分県における土地改良区やため池サポートセンターの現状、ため池管理への市民参加などに関して議論が行われました。

セミナーの最後に、伊藤青雲会会長から講演へのお礼と参加者への挨拶がありました。

セミナー開催にあたってご尽力いただいた宮町先生他大学の関係者の皆様、ありがとうございました。

開催日時
令和6年8月31日(土) 17時～18時

場所
J・COMホルトホール大分 2階
サテライトキャンパスおおい講義室

演題
「仕事術としてのセルフマネジメン
ト」

講師
大分大学総合経済学科 准教授
松谷葉子氏

参加者
青雲会会員、現役院生、大学関係者
等 19名

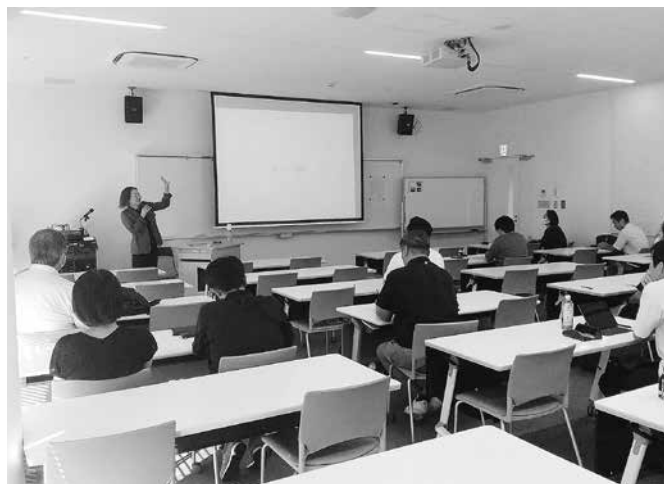
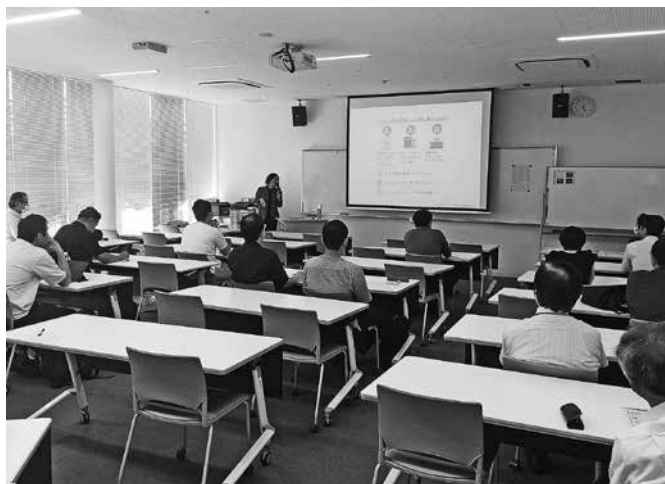
今回のイノベータータイプ経済セミナーは、昨年に続いて、大学院主催の「ピ

第25回四極青雲会定例会
—イノベータータイプ経済セミナー—
として大分大学院経済学研
究科と共催—

セミナー後は18時半からホルトホール3階のホルトガーデンで、講師を囲んで有志で懇親会を開催しました(13名の参加)。

ご参加の皆様、お疲れ様でした。感謝申し上げます。今後も大学と連携しながらイノベータータイプ経済セミナーを開催していきたいと思っております。

(事務局)



ビジネスパーソンのための経営サマースクール」(計3回開催)の第1回目と兼ねて開催しました。

講師の松谷先生は2023年度に大分大学に着任されており、九州初上陸とのことです。キャリアのスタートは医療機器製造業で電子系エンジニアとしての研究開発職で、その後経営コンサルタントを経て大阪の大学の新規学科立ち上げに携わり、そのまま教員となり、2023年に大分へということになります。(会報「青雲」第13号に寄稿をいただいております。詳しくは会報を参照願います。)

セミナー内容については、大分大学HPの記事を掲載させていただきます。○パソコンのない時代から大きく変化した現在の働き方を概観されたうえで、企業の中の副業や兼業の取入れが実は優秀な人材を定着させるための工夫であること、ジョブ型人事制度の導入とともにプロジェクト型の業務遂行の状況、従業員エンゲージメントの実情、SWOT分析を活用したセルフマネジメントへの取り組みなどについて多くの事例を交えながらお話しされました。

*SWOT分析：企業やプロジェクトの強み(Strengths)、弱み(Weaknesses)、機会(Opportunities)、脅威(Threats)の分析・評価に基づき現状の把握やビジネス戦略に役立てる

フレームワーク。

セミナー開催にあたってご尽力いただいた宮町先生他大学の関係者の皆様、ありがとうございました。

例年ですと、セミナー後に講師を囲んで有志での懇親会を開催する予定でしたが、台風10号の影響で、残念ですがこの回は中止としました。

ご参加の皆様、お疲れ様でした。感謝申し上げます。今後も大学と連携しながらイノベータータイプ経済セミナーを開催していきたいと思っております。(事務局)

2024年度 新院生のご紹介

新院生の皆様、ご入学おめでとうございます。

四極青雲会(大分大学大学院経済学研究科同窓会)として歓迎いたします。当同窓会は現役院生も入会資格がありますので、セミナーや総会といった集まりにご参加いただき、色々な人と幅広い交流をしていただくよう期待しております。

会則等は四極会HPの青雲会ページ(下記URL)をご覧ください。
<https://www.shiwasukai.com/seiunkai/>

それでは、会員及び関係者の皆様、2024年度の新院生をご紹介します。

【2024年4月入学】

○博士前期課程(マスター) 5名

片岡 大(租税法/田代浩ゼミ)、岩下 優衣(地域発展論/宮町良広ゼミ)、橋本 英子(企業論/渡邊博子ゼミ)、藤原 泰樹(地方財政論/林勇貴ゼミ)、YOUQILING(ユー チリン)(比較経営史/渡邊博子ゼミ)

○博士後期課程(ドクター) 3名

呉 ハヌン(オ ハヌン)(労働関係論/石井まことゼミ)、久保 良太郎(労働関係/石井まことゼミ)、兒玉 文王(コダマ ウェンユウ)(比較経営史/渡邊博子ゼミ)

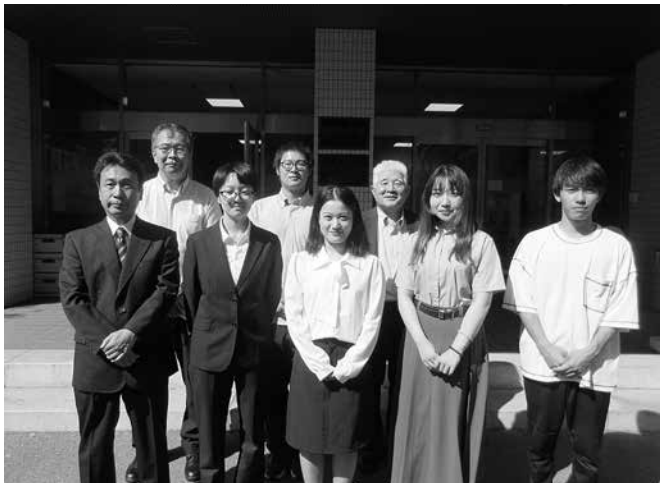
【2024年10月入学】

○博士前期課程(マスター) 5名

黒木 陽騎(租税法/田代浩ゼミ)、呉 若水(ゴ ジャクヒョウ)(福祉政策論/三好禎之ゼミ)、丁 芸洋(テイ ゲイヨウ)(農村発展論/山浦陽一ゼミ)、楊 若彤(ヨウ ジャクタン)(多言語社会政策論/包聯群ゼミ)、李 朕 雯(リ チンブン)(比較経営史/渡邊博子ゼミ)

○博士後期課程(ドクター) 1名

張 凱勛(チョウ ガイクン)(比較経営史/渡邊博子ゼミ)



編集雑感

会報「青雲」第14号を発行することができました。

今回も大学の宮町先生にお願いして教官と院生数名の推薦をいただいて寄稿を依頼しました。また、会員の皆さん40名ほどにご寄稿を依頼しました。宮町先生、学務係の矢田様、ご寄稿いただいた皆様には感謝しかありません。ありがとうございました。

前回の反省を踏まえ早めに準備にとりかかりました。この点はよかったのですが、会員からの寄稿が5名にとどまった点が残念でした。原稿をいかに集めるかが会報作成で一番の課題なのでしょう。引き続き会員の皆様に寄稿を依頼していきますので、ご協力をお願いいたします。

ところで、私事ですが、一昨年9月に仕事を辞め田舎で暮らしていました。が、昨年9月から豊後大野市大野町の「東部地区振興協議会」の事務局（地域支援員）を担うことになりました。本会報の記事の中で、山浦陽一先生が「地域運営組織で活躍を！」の中で書かれているまさに「地方運営組織」です。旧東部小学校地域で4つの自治会があります。高齢化率が50%以上となり、地域のつながりや交流、イベント等ができなくなってきた中で、

今回の協議会立ち上げを令和2年から地域で話し合われてきました。最後のネックは事務局を担う人材でしたが、たまたま小生が帰ってきたことから話があり、育ててくれた地域や人々に恩返しの意味で引き受けることになりました。空き家になった家を借りて拠点とし、パソコンとプリンター、WiFi環境の設置など立ち上げに苦労しましたが、なんとか形になってきました。昨年年末にイベントとして、旧東部小グラウンドで「餅つき大会」を開催しましたが、子どもが集まり大変好評でした。来期の目標は自主防災の意識醸成（意識改革）にむけて何か起爆となる取り組みを行うことです。「ユレルンダー」の試乗体験を考えています。

青雲会の事業計画の中で、会員名簿の整備というのがあります。3月の時点で分かっている会員の皆様にはこの会報を郵送しているところですが、毎回郵送不能で何通か返ってきます。それと、連絡先としてメールアドレスを集めているところです。会報は郵送しますが、イノベーター経済セミナー等のイベントの周知はメールで行っていきたいと思います。住所が変わった場合は変更の連絡を、それとメールアドレスを是非ご連絡していただきますようお願いいたします。

会報は会員の誌上での交流の場です。会員の日頃の近況報告や感じたことな

どを是非文章にさせていただいて、会報にご寄稿いただければと思います。会報発行は3月ですが、寄稿はいつでもいいので、文章にした都度、送っていただければありがたいです。よろしくお願いたします。

○会報への寄稿要領

- ① 題材は自由。今の生活の様子、大学院（入学）にかかわることや思い出・体験、旅行や飲み会などのエピソードなどのようなことでもOKです。表題はお付け願います。
- ② 寄稿者の顔写真も送ってください。
- ③ 字数は800字〜1200字程度
- ④ 寄稿者名、何回生、住所、メールアドレスを表記

○寄稿及び住所変更、メールアドレスの連絡先

四極青雲会事務局（大分市城南北町1丁目6番7号） 木本英光

・メールアドレス：..

kinoto.hidenitsu@gmail.com

・電話番号：..

080-1707-3936

（事務局 院1回生 木本英光）

やっぱり
ヤノメガネだね

メガネも
補聴器も

メガネの国家検定資格 が ん きょう さく せい ぎ の う し 補聴器の認定資格 に ん てい ぼ ちよう き ぎ の う し ゃ
「眼鏡作製技能士」と「認定補聴器技能者」
全店に在籍しています

目や耳の代わりとなるメガネと補聴器。
どちらもご自身の視力や聴力の特性や状態に合わせ、
精密に検査調整し、適切に選ぶ必要があります。

大切な視力と聴力だから…

ヤノメガネには、メガネと補聴器の資格試験に合格した
「眼鏡作製技能士」と「認定補聴器技能者」が
いつでも対応できるように全店舗に在籍しています。

最適で安心なメガネと補聴器は、
ヤノメガネにおまかせください。

AJOCイメージキャラクター
春風亭昇太

メガネ・補聴器の専門店



www.yanomegane.jp